

## 1. ビジネスのネタ（種）はどこにもある！

10月10日付の日経MJに掲載されていた小さな記事からのお話です。記事のタイトルは「ネット炎上 炎で供養」です。補足に「新潟の寺、専用サイトも開設」とあります。「えっ、これってどういうこと?!」と次の頁をめくろうとした私の指が止まってしまいました。

新潟県燕市にあるそのお寺は国上寺と言います。本年10月2日に「炎上供養専用サイト」を開設したというのです。以下は住職の山田光哲さん(51)に取材しネット配信(J-CAST ニュース)されているものから転記しました。

「山田さん自身は、ネットを頻繁に使うというわけではなく、炎上投稿を見ることはあまりないという。ただ、テレビなどで『炎上』関連の話題を目にすることがあり、サイトの開設を思いついた。

『知らない人に『あーでもないこーでもない』と言われると落ち込むと思います。(サイトの『供養』ボタンを)クリックするだけで、少しでも気持ちが晴れればなあと思います。仏教に基づく大義に『救済』というものがあります。(炎上して落ち込んでいる人に)誰かが手を差し伸べなければと思っています』。山田さんは、国上寺では『水子供養』や『ペットの葬祭』、他の寺では『下駄供養』など、世の中にはさまざまな『供養』があると話す。『若者離れ対策』、『炎上した人の救済』という理由はもちろんだが、『**炎上供養はまだ誰もしたことないですよ?**』と、これまでにない『供養』をやりたいという思いもあったようだ。」

炎上データはサイト、もしくはメールアドレスから送られたデータはプリントアウトし、撫木(なでぎ)に貼り付けられ、10月7日の「柴燈大護摩(さいとうだいごまく)火渡り大祭」の残り火で焚き上げられたとのこと。期間限定の供養とし来年も行うそうですが、供養料は無料です。

仏教には様々な供養があり、それを起点に思いついた新しい供養。500件以上あったらしい“炎上供養”。その記事とそこから検索して分かったことは、「**誰も気づかないところこそ、新しいビジネスの種、芽はある**」ということです。経営者の皆さんは、毎日どれだけ**新しいビジネスの種・芽を探す努力**をしていますか?!

## 2. 「象牙の箸」はおそろしい!?

日経新聞10月14日(日)のコラム「遊遊漢字学」に、漢字学者の阿辻哲次氏がこのようなタイトルで面白い文を書いていました。

コラムは古代中国の殷王朝最後の王紂は、あるとき象牙製の箸を作らせたという記事から始まります。紂の叔父の箕子(きし)はこれを聞いて震え上がったというのです。箕子はこう考えたのです。

「象牙の箸を作る」⇒「玉の食器を欲しがる」⇒「象箸玉杯となれば珍奇な食材を入れるようになる」⇒「藁ぶき宮殿から豪華な宮殿へと造営する」というように、国家財政の浪費に歯止めがかからなくなる。そして酒池肉林三昧にはしり、増税が必要となり、国民の支持を失うだろうと。結果は周の武王に滅ぼされてしまいました。

私は阿辻哲次氏が描いたこのコラムを読んで「さもありません」と思った次第。何か凝るというのは悪くはありませんが、**会社の資金が社外に無為に流出することは避けなくてはなりません**。経営者はある意味で独裁者です。全て鶴の一声で全てが決まります。**経営トップはお金の使い方細心の注意を払う必要がある**のです。

## 3. 本の紹介

瀬戸山隆三著、「現場を生かす裏方力 プロ野球フロント日記」、同友館、1,600円(税別)。実は著者は私が在籍した大阪市立大学の準硬式野球部の1年先輩なのです。瀬戸山さんが主将だった時、我が部は18年ぶりの優勝を果たしました。大学時代から強いリーダーシップを発揮していたのです。

商社を目指したもののダイエーに入社した瀬戸山さんは、**偶然の重なりが幾つもあった**後、プロ野球南海の買収の第一線に立つことになる。紆余曲折を経て、世界の王を説得し、1995年のシーズンからフォークスの指揮をとってもらった。

ダイエー、ロッテ、そして最後はオリックスと30年の長きにわたったパリーグ球団の本部長、代表、社長らの要職を歴任してきました。**親会社(オーナー)からの赤字削減要求、奇想天外なアイデアを生かして観客数の大幅増加、千葉県市など行政を動かして地域活性化等々、苦勞話一杯**。王監督の帯もついています。ぜひご購入下さい。